

201020002A (1/2)

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な
地域連携クリティカルパスモデルの開発に関する研究

平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 谷 水 正 人

平成23(2011)年3月

目 次

I. 総括研究報告

- 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 1
谷水 正人

II. 分担研究報告

1. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発 がん地域連携パスの作成と運用に関する研修プログラムの開発に
関する研究 7
河村 進
2. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 52
藤 也寸志
3. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発 一般医療機関用の簡易緩和ケアマニュアルの作成と使用前調査 ... 56
池垣 淳一
4. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 62
望月 泉
5. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発 大腸がんの地域連携クリティカルパスに関する研究 68
佐藤 靖郎
6. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 72
武藤 正樹
7. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 (肺がん) 75
住友 正幸
8. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 胃がん領域における地域連携クリティカルパスの
作成とその運用に関する研究 78
梨本 篤
9. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 81
田城 孝雄
10. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 102
里井 壯平
11. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 121
朝比奈 靖浩
12. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 125
池田 文広
13. 全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパス
モデルの開発に関する研究 がん診療連携拠点病院における連携コーディネート
機能に関する研究 127
浜野 公明
14. 資料 131

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表 155

I. 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

総括研究報告書

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な

地域連携クリティカルパスモデルの開発

研究代表者 谷水正人 国立病院機構四国がんセンター 統括診療部長

研究要旨

がん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデル（以下「連携パス」）の開発を進めた。

1) 連携パスひな型の開発と提供：5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がん）について連携パスのひな型を研究開発し、インターネットに公開した。

2) がん診療における地域連携パス開発の現況調査を行った。全国アンケート調査では地域統一型の連携パス開発が急速に進捗していることが判明したが、半数の拠点病院では連携パスが運用開始されていない状況であった。

がん診療における地域連携パスが成立するための要件について検討し、連携コーディネート機能は1) 直接的患者支援機能と2) 連携マネジメント機能に分けられることを示した。連携担当者の技能としては1) 連携に関する十分な基礎知識・基礎技術、2) 連携のための事務機能、3) コミュニケーションスキル、企画調整能力、が重要であると考えられた。以上の検討に基づいて連携コーディネートのグループワーク研修プログラム開発が行われた。

がんの連携パス導入と普及のために今後も継続的な研究が求められる。

【研究分担者】		梨本 篤	新潟県立がんセンター新潟
河村 進	国立病院機構 四国がんセンター 外来部長		病院 臨床部長
藤 也寸志	国立病院機構九州がんセンター 統括診療部長	田城孝雄	順天堂大学医学部 公衆衛生学講座准教授
池垣淳一	兵庫県立がんセンター 緩和医療担当	里井壯平	関西医科大学附属枚方病院 外科講師
望月 泉	岩手県立中央病院 副院長	朝比奈靖浩	武蔵野赤十字病院 消化器科部長
佐藤靖郎	済生会若草病院 副診療部長兼外科部長	池田文広	前橋赤十字病院
武藤正樹	国際医療福祉大学大学院 教授	浜野公明	千葉県がんセンター 経営戦略部長
住友正幸	徳島県立中央病院 医療局次長		

A. 研究目的

本研究班の重点課題は下記の2つとした。

1. 連携パスのひな型を開発すること
2. 連携パスを稼働させる仕組みを整理し、提案すること

B. 研究方法

1. 連携パスのひな型を開発すること、については、分担研究者がそれぞれ、ひな型を開発し、提示すること。連携パスの全国での開発状況を調査すること。先進地域のネットワーク構築事例を集積すること、とし、3年目も情報提供を行った。

2. 連携パスを稼働させる仕組みを整理し、提案すること、については、連携コーディネート機能の明確化を図り、連携の基本的技術の整理、マニュアル化、ワークグループ研修を試みた。

(倫理面への配慮)

本研究では患者情報の個人情報研究対象としない。成果物を利用して各個人の診療に活用する場合には診療録と同等の扱いとし、診療録等個人情報保護規定を厳守する。研究、検証には個人情報は抹消してデータを収集・検証した。

C. 研究結果

H23年1月の拠点病院(都道府県指定の準拠点病院を含む)アンケート調査では地域統一の連携パス開発が進んでおり、適応患者数も急速に増加している。また、診療報酬算定の件数も伸びていた(図1)。しかし、約半数の拠点病院ではまだ連携パスが運営されていない状況であり、今後の開発と運用環境整備に課題が残ることが示された。

研究班発足3年目を経過して連携パス適応後の脱落、中止例の分析結果も出てはじめた(肺がん術後226例(H17/5-21/5)の検討で、連携の中断、行方不明が22名(9.7%):住友正幸、乳がん術後270例(H20/7-21/6)の検討で連携の中断、行方不明が11名(4.1%):浜野公明)。

連携コーディネート機能としては、直接的患者支援機能(診療の場面で連携にかかわる介入を患者に対して行うコーディネート機能であり、主治医と外来看護師が担当)と連携マネジメント機能(診療の場面以外で連携診療を円滑に行うための調整等の業務を院内外の医療者に対して行うコーディネート機能であり、医療連携室の看護師と事務員が担当)について整理された(浜野公明)。

連携担当者に求められる技能としては、1)連携に関する十分な基礎知識・基礎技術があること。地域の医療資源・社会資源、医療制度、基礎となる医療知識、クリティカルパスの知識、2)連携のための事務機能を遂行できること。連携パスの開発・管理・分析、データ集積・分析・フィードバック、研修会・連絡調整会議の開催、3)コミュニケーションスキル、企画調整能力があること。患者個々のニーズが把握できる、患者個々に対応した医療連携を構築できる、医療関係者間の連絡調整が正しく実施できる、多職種・多事業所間の調整、福祉・行政の調整、連携に伴い生じた問題に適切に対応できる、について整理された(谷水正人)。

医療連携業務の標準化と質の評価についての検討ではドナベディアンモデルに基づく評価指標の分類(構造、過程、結果)が

有用であると考えられ、今後連携業務の項目、具体的な目標の設定を行い、連携の理念の確立を目指していくことが望まれると考えられた。

今年度は連携コーディネートの技能を向上させるグループワーク研修のプログラム開発が行われ、グループワーキング研修（1日コース、2日コース）が実施された（河村進）。

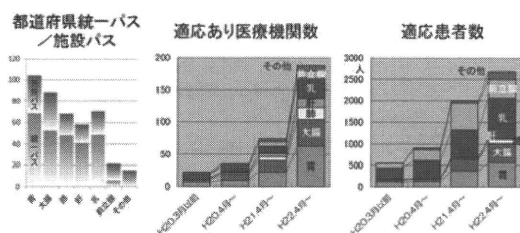


図1) 拠点病院(準拠点を含む)の全国アンケート調査
H23年1月調査、回答207施設/470施設
診療報酬算定数1214件(H22年4月～)

D. 考察

「がんの連携パス」は単純にかかりつけ医の普及、共同診療体制の改善を目指すものではなく、医療提供側（病院、診療所）、受け手側（患者・家族）で統一されていない医療への期待、志向のベクトルを標準治療、患者 QOL の視点から方向付けることを目指している。今後、地域医療連携を担うための意識・組織を整えるためには病院内の大幅な改革が求められる。

E. 結論

本研究班の活動はがんの連携パス導入と普及に貢献したと考えるが今後も継続的な研究が求められる。今後、継続する課題としては下記の3点を挙げておきたい。

- 1) ひな型の継続的な開発と改良
- 2) 医療連携コーディネート機能と方法論の標準化と検証

- 3) 医療者、国民の意識改革へのアプローチ

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Hisanaga T, Shinjo T, Morita T, Nakajima N, Ikenaga M, Tanimizu M, Kizawa Y, Maeno T, Shima Y, Hyodo I.

Multicenter prospective study on efficacy and safety of octreotide for inoperable malignant bowel obstruction. Jpn J Clin Oncol 40(8):739-45 2010

2. Nasu J, Hori S, Asagi A, Nishina T, Ikeda Y, Tanimizu M, Iguchi H, Aogi K, Kurita A, Nishimura R. A case of small undifferentiated intramucosal gastric cancer with lymph node metastasis. Gastric Cancer 13(4):264-6 2010
3. 谷水正人 5大がんの地域連携 クリティカルパス開発の現況 (株)日本医学出版(東京) 編者 武藤正樹 地域連携コーディネーター養成講座 地域連携クリティカルパスと退院支援 17-24 2010
4. 谷水正人 がん医療連携パス 基盤整備に課題 Medical ASAHI 10月号 22-23 2010
5. 谷水正人 5大がんの地域連携クリティカルパス開発の現状と課題 多摩消化器シンポジウム誌 25(1):5-8 2011
6. 谷水正人, 成本勝広, 大中俊宏 病院が

中心となって取り組んでいる事例 四国がんセンター:がんの連携 日本医師会雑誌 139 巻・特別号(1) S300-S303 2010

7. 谷水正人, 河村 進 5 大がん地域連携クリティカルパスとコーディネート機能の必要性 (株)じほう (東京) 日本医療マネジメント学会監修 がん地域連携クリティカルパス がん医療連携とコーディネート機能 47-53 2010
8. 鳥巢真幹, 那須淳一郎, 松本俊彦, 梶原猛史, 浅木彰則, 仁科智裕, 堀伸一郎, 池田宜央, 灘野成人, 谷水正人, 寺本典弘 胃と直腸に病変を有したマントル細胞リンパ腫の 1 例 Gastroenterol Endosc 52(11):3099-3105 2010
9. 那須淳一郎, 大住省三, 増田春菜, 谷水正人 がんのゲノム解析と診療への応用 家族性腫瘍 日本臨牀 68 巻増刊号 8:494-500 2010
2. 学会発表
 1. 谷水正人 がん連携をサポートするコーディネート機能の必要性 第 12 回日本医療マネジメント学会 2010. 6. 11 札幌市
 2. 下村裕見子, 池田俊也, 武藤正樹, 谷水正人 がん地域連携クリティカルパスの理解度と連携実務者に期待する役割 第 12 回日本医療マネジメント学会 2010. 6. 11 札幌市
 3. 下村裕見子, 池田俊也, 武藤正樹, 谷水正人 がん診療連携拠点病院等におけるがん診療の連携の課題 第 12 回日本医療マネジメント学会 2010. 6. 11 札幌市
 4. 下村裕見子, 池田俊也, 武藤正樹, 谷水正人 がん診療連携拠点病院等におけるがん地域連携クリティカルパス調査 第 12 回日本医療マネジメント学会 2010. 6. 11 札幌市
 5. 堀伸一郎, 池田宜央, 仁科智裕, 浅木彰則, 梶原猛史, 松本俊彦, 竹治智, 灘野成人, 谷水正人 早期胃がん ESD 後に発生した食道、頭頸部表在腫瘍に対し内視鏡治療を行った 1 例 第 104 回日本消化器内視鏡学会四国地方会 2010. 6. 19 松山市
 6. 松本俊彦, 仁科智裕, 竹治智, 梶原猛史, 浅木彰則, 堀伸一郎, 池田宜央, 灘野成人, 谷水正人, 井口東郎 胃低分化内分泌細胞癌術後再発に対して CPT-11/CDDP 療法を行い CR となった 1 例 第 93 回日本消化器病学会四国支部例会 2010. 6. 19 松山市
 7. 浅木彰則, 竹治智, 灘野成人, 松本俊彦, 梶原猛史, 仁科智裕, 堀伸一郎, 那須淳一郎, 池田宜央, 井口東郎 当院にてソラフェニブを投与した肝細胞癌 13 例の検討 第 93 回日本消化器病学会四国支部例会 2010. 6. 19 松山市
 8. 竹治智, 鮫島祥子, 黒田陽介, 松本俊彦, 浅木彰則, 梶原猛史, 仁科智裕, 堀伸一郎, 池田宜央, 灘野成人, 谷水正人, 西崎隆, 山下順章, 井口東郎 ゲムシタビン投与中に軸索型末梢神経障害が出現した膵癌及び十二指腸乳頭部癌の 2 症例 第 93 回日本消化器病学会四国支部例会 2010. 6. 19 松山市
 9. 大住省三, 増田春菜, 青儀健二郎, 久保義郎, 堀伸一郎, 松元隆, 白山裕子, 谷水正人 Li Fraumeni 症候群の一家系 第 48 回日本癌治療学会学術集会

2010. 10. 28 京都市
10. 青儀健二郎, 谷水正人, 河村進, 新海哲
乳がんの地域連携パス運用上の問題点
ー連携コーディネーターの活用ー 第
48 回日本癌治療学会学術集会
2010. 10. 28 京都市
 11. 堀伸一郎, 門田伸也, 滝下照章, 石川徹,
山崎愛語, 山下安彦, 松本俊彦, 梶原猛
史, 浅木彰則, 仁科智裕, 池田宜央, 灘野成
人, 谷水正人, 井口東郎 頭頸部癌治
療後に発見された表在腫瘍に対する内
視鏡治療 第 48 回日本癌治療学会学術
集会 2010. 10. 29 京都市
 12. 松本俊彦, 仁科智裕, 梶原猛史, 浅木彰
則, 堀伸一郎, 谷水正人, 井口東郎 DIC
を合併した切除不能・再発進行胃がん
に対する化学療法の検討 第 48 回日本
癌治療学会学術集会 2010. 10. 30 京都
市
 13. 澤木明, 山田康秀, 山口研成, 土井俊彦,
仁科智裕, 佐藤太郎, 陳勁松, 朴成和, 小
室泰司, 瀧内比呂也, 小松嘉人, 浜本康
夫, 小泉和三郎, 佐治重衡, 大津敦 無治
療の進行・転移性胃癌患者を対象とし
たベバシズマブの第Ⅲ相試験 (AVAGAST
試験) 第 48 回日本癌治療学会学術集
会 2010. 10. 30 京都市
 14. 谷水正人 がんの地域連携パス 第 34
回日本死の臨床研究会年次大会
2010. 11. 6 盛岡市
 15. 谷水正人 がんの地域連携パス 第 72
回日本臨床外科学会総会 2010. 11. 22
横浜市
 16. 谷水正人, 藤井元廣, 櫃本真聿, 松野剛,
梶原伸介, 亀井治人, 原雅道 愛媛県が
ん診療連携協議会によるがんの地域連
携パス開発の現状と課題 第 11 回日本
クリニカルパス学会学術集会
2010. 12. 4 松山市
 17. 梶原猛史, 仁科智裕, 竹治智, 松本俊彦,
浅木彰則, 堀伸一郎, 池田宜央, 灘野成
人, 谷水正人, 井口東郎 消化器癌の外
来化学療法による重篤な有害事象の発
生状況および対策 第 94 回日本消化器
病学会四国支部例会 2010. 12. 4 徳島
市
 18. 池田宜央, 堀伸一郎, 松本俊彦, 竹治智,
梶原猛史, 仁科智裕, 浅木彰則, 灘野成
人, 谷水正人 大腸上皮性腫瘍に対する
内視鏡的粘膜下層剥離術の現況 第 94
回日本消化器内視鏡学会四国支部例会
2010. 12. 4 徳島市
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

II. 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な
地域連携クリティカルパスモデルの開発
がん地域連携パスの作成と運用に関する研修プログラムの開発に関する研究

研究分担者 河村 進 国立病院機構四国がんセンター 外来部長
研究協力者 船田千秋 国立病院機構四国がんセンター 副看護師長

研究要旨

がん地域連携パス（以下、連携パス）の開発・導入は、全国の医療施設で広がりを見せている。現在、連携パスは、基本となるパスが各地域や当研究班で開発され公開されているが、運用に関しては検討が始まったばかりである。また、連携パスは、これまでパスの開発・運用にかかわってこなかった地域連携担当者が運用の中心となって、地域への広報、普及活動を行うことになると推測される。このため、本研究では、連携担当者が連携パスへの理解を深め、効果的な運用を実践するための研修プログラムを作成し、研修の提供と評価を行う。これらから、連携パス運用に関する実務者のスキル向上を期待すると共に、連携パスの運用上の問題点とその具体的かつ効果的の方策に対して示唆を得る。

A. 研究目的

がん地域連携パスの整備ががん対策基本法に示されてからすでに4年が経過しているが、連携パスの運用の検討や、実務担当者への教育・支援のための取り組みは始まったばかりである。本研究では、連携担当者への研修の提供と評価を行うことによって連携パス運用に関する実務者のスキル向上を期待する。また、受講者調査と研修の成果物から、連携パス運用上の問題点とその具体的かつ効果的の方策に対して示唆を得ることを目的とする。

1. がん地域連携実務者への研修プログラムの開発

- 1) ベーシックコース
ーがん地域連携パス作成研修

2) アドバンスコース：開発中

ーがん地域連携パス運用研修

2. 研究対象者

- ・以下の連携パス担当者に対して1. 1)

ベーシックコース研修を提供

1) 国立病院機構中四国ブロック

2) 愛媛県がん診療連携協議会

3. 受講者への調査

1) 研修前調査

①パスの運用状況

②実務者業務の状況

2) 研修会終了直後の質問紙調査

3) 研修後6ヶ月又は12ヶ月後の追跡調査

①地域連携パスの運用状況

②実務者業務の状況

4. 3で得られた内容を集計、分析

5. グループワークの成果物から、

問題点の抽出と具体的方策の検討

(倫理面への配慮)

本研究では患者情報、個人情報には研究対象としないため、各成果物そのものは個人情報保護には接触しない。

C. 研究結果 (アンケート結果を含む)

プログラム開発に当たっては、がん地域連携クリティカルパス(じほう)を参照した。

1. ベーシックコースプログラムの開発 コース目的

: がん地域連携パスの理解と作成

1) 講義 (座学)

- ・がん地域連携パス誕生の背景・意義
- ・がん地域連携パスとは何か
- ・がん地域連携パスの現状
- ・がん地域連携パスに必要な要素/要件

2) グループワーク

- ・がん地域連携パス作成 (大腸がん)
- ・K J法を用いたがん地域連携パスの運用の検討

2. 研修の開催と受講者調査

平成 22 年 11 月 11・12 日、参加者 42 名の国立病院機構中四国ブロック研修を開催した。

- ・受講者調査

①研修前調査

パスの運用状況: 受講者の施設では、29~450 種類のパスが作成されており、パス使用率は、1.16%~62%、不明 10 名であった (図 1. 図 2)。

実務者業務の状況: 受講者は、パスに関する部署での役割がある 56%、院内での役割がある 51%、パス作成経験がある 54%、連携パスの作成経験がある 13% という状況で

あった (図 3.)。

②研修会終了直後の質問紙調査

VAS スケールを用いて、講義・グループワークの理解度と達成度を評価した。

理解度/達成度: 各内容について、最低値は 2.8~4.5、VAS 5 以下の受講者は 8~13% であった。また、各内容の VAS 7 以上の受講者は 67~82%、受講者の平均値は 7.6、平均値以上の受講者は 56% であった (図 4.)。研修プログラムの評価: 研修の時期・時間、内容量について、良い 97%、研修に価値がある 100%、自己負担でも受講する 56% であった。また、このような研修は必要または必須 70% となっていた (図 5)。

D. 考察

研修開催が平成 22 年 11 月であり、本報告書を作成する段階では、受講者への事後の追跡調査が完結していないため、現段階で得られた結果から考察をのべる。

今回の研究対象者は、政策医療に携わる国立病院機構中四国ブロックの医療機関に従事するものであり、施設/組織背景はバラエティーに富む。研修前調査から、パス使用率が 1% 代の施設から、入院患者の半数以上の 62% がパス適応という施設まで、施設間のパスに対する温度差感じられる。

パスの適応率は、標準的な医療提供の状況とその施設のチーム医療状況を推測する一つの指標となる。連携パスが充実・発展するためにも、標準化とチーム医療促進は不可欠であろう。そのため、院内パスが充実している施設では、連携パスの充実・発展に繋がる可能性は大きく、連携担当者にとって自施設のパスの現況を把握することは連携パス運用を検討する上での重要なポ

イントとなるであろう。

また、本研究では、研修受講者のスキル向上が研究目的の一つであるが、プログラム内容の理解度/達成度は概ね高いと言えることから、受講者が、連携パスの背景、本質を理解した上で、個々の実践を提供されることに期待したい。また、研修に価値がある、必要、研修費用を負担しても受けて、と答えた受講者が多数であることから鑑みても、このような連携パス担当者への実践的な研修のニーズが高いと考えられる。今後は、より多くの実務者へ研修を提供できるような方策を検討したい。

がん地域連携パスの開発やがん地域連携の仕組みは、まだ始まったばかりである。今回、診療報酬算定対象となったことで、がん連携パスの開発/導入が促進すると予測されるが、本研究で開発する研修プログラム受講者が、がん地域連携パスに関する知識と理解を深め、地域連携の実践の中心的な役割となることで連携パスの普及と地域がん医療の均てん化に寄与することを期待する。

E. 結論と今後の課題

・本研究で開発した研究プログラムは、受講者から、「価値が高い、必要である」との評価を受けた。また、このような研修のニーズの高さも示唆された。

・今後は、事後の追跡調査とグループワークの成果物からの問題点の抽出と具体的方策の検討を行う。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 河村進 5大がん地域連携クリティカルパスとコーディネート機能の必要性
がん地域連携クリティカルパス 株式会社 じほう 東京 pp47-62 2010
2. 船田千秋 退院支援・退院調整における看護師の役割 日本クリニカルパス学会誌 12 (2) : 96-102 日本クリニカルパス学会 2010

2. 学会発表

1. 河村進 がん治療後のリンパ浮腫標準治療と最新のトピックス 第4回オンコロジーナース・ファーマシスト研究会 2010. 4. 2 那覇市
2. 河村進 愛媛県のがん診療連携パス運用への取り組みーがん診療連携パス班研究の報告を含めてー 高知赤十字病院 第24回クリニカルパス大会 2010. 6. 26 高知市
3. 河村進 リンパ浮腫の病期および重症度別アプローチー診療用クリニカルパスー 平成21年度厚生労働省委託事業 がんのリハビリテーションセミナー リンパ浮腫研修 2010. 7. 3 東京都
4. 河村進 がん地域連携クリティカルパスの未来への展望ーがん診療連携パス研究班の目指すものー 松江がん医療地域連携フォーラム 2010 2010. 7. 9 松江市
5. 鈴木良典 河村進 後頭部廓清を要した後頭部の eccrine porocarcinoma 第60回日本形成外科学会中国四国支部学術集会 2010. 9. 12 松山市

6. 河村進 がん治療後のリンパ浮腫標準治療 と最新のトピックス 宇和島市がん診療連携協議会 2010. 11. 24 宇和島市
7. 河村進 がん治療後リンパ浮腫の標準治療 がん治療カンファレンス 2011. 2. 2 日南市
8. 鈴木良典 河村 進 当院での遊離組織移植による再建症例の検討 第 61 回日本形成外科学会中国四国支部学術集会 2011. 2. 20 20 岡山市
9. 河村進 パスをもたらすチーム医療 ～四国がんセンターの意識変革～ 中国四国支部学術集会 2011. 2. 19 倉敷市

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

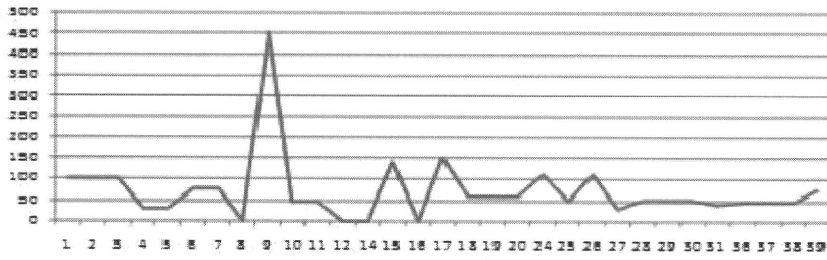


図.1 クリニカルパス運用数

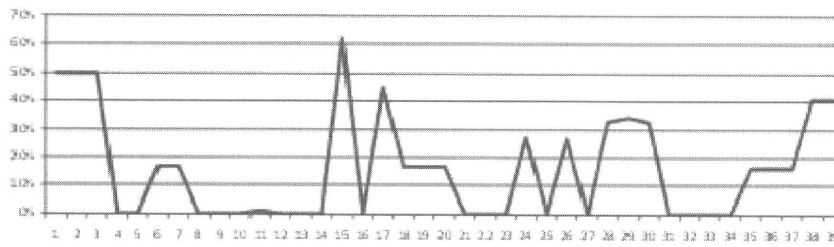


図.2 クリニカルパス使用率

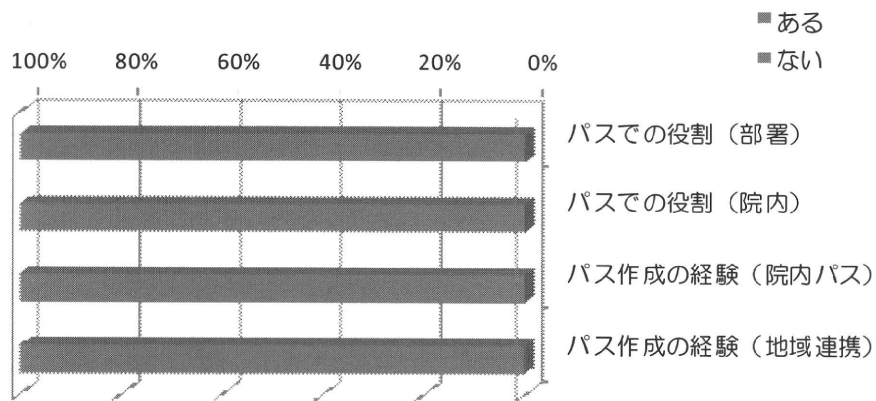


図3. 実務者業務の状況

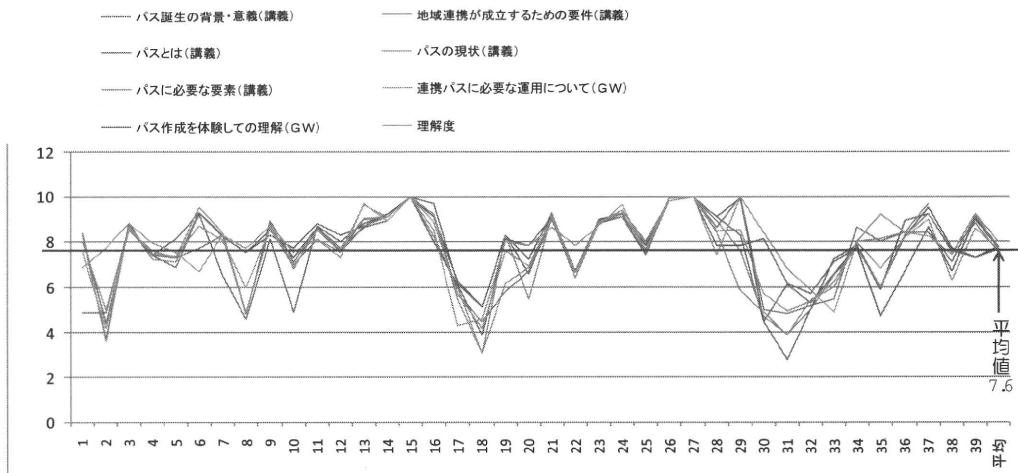


図4. 研修内容の理解度/達成度

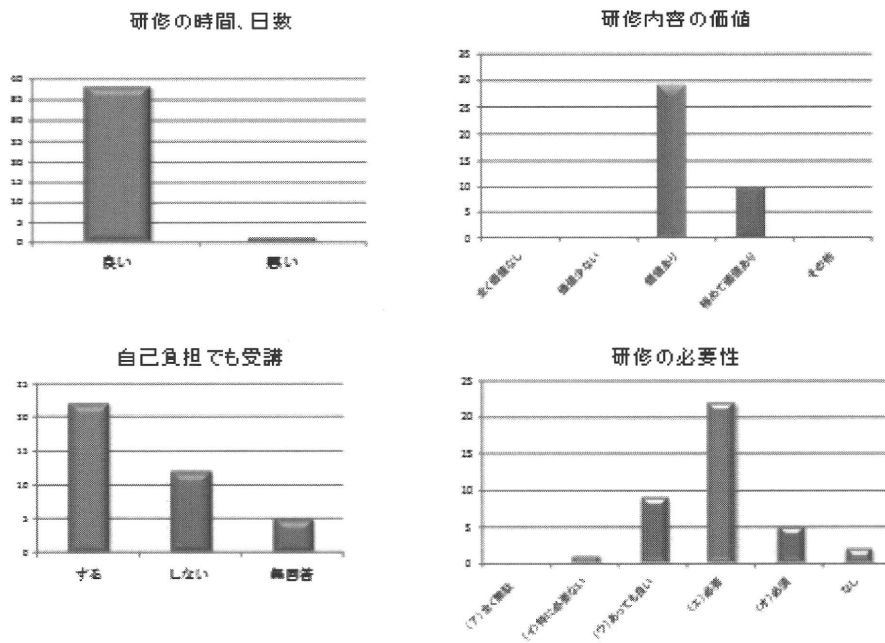


図5. 研修プログラムの評価

抜粋資料

平成23年3月26日

がん地域連携パス研修会

がん地域連携パスの作成と運用に
関するグループワーク研修

(主催) 愛媛県がん診療連携協議会

(共催) 四国がんセンター

パス推進委員会／がん相談支援・情報センター

がん地域連携パス研修会 日程表

テーマ：がん地域連携パスの理解と作成

日時：3月26日（土）9:30から17:20まで

内容：がん地域連携パスの作成と運用に関するグループワーク研修

開催場所：コムズ 4階 視聴覚室A・B

（主催）愛媛県がん診療連携協議会

（共催）四国がんセンター

【午前の部】

内容：がん地域連携パスの作成研修

9:00～9:30 受付

9:30～9:40 開会挨拶 オリエンテーション ファシリテーター紹介
司会 四国がんセンター 外来部長 河村 進

9:40～10:10 がん地域連携パスの作成に関する説明
1. がん地域連携パス誕生の背景
2. がん地域連携パスとは何か がん地域連携パスに必要な要素について
四国がんセンター 外来部長 河村 進

10:10～12:50 グループワークによるがん地域連携パス作成研修
司会 四国がんセンター 副看護師長 清水 弥生
ファシリテーター：四国がんセンター パス推進委員会メンバー他

10:10～10:20 グループワークの説明

10:20～10:35 アイスブレイキング

10:35～12:10 グループワークによる地域連携パスの作成研修

12:10～12:20 休憩

12:20～12:50 各グループからの発表・討議（1グループ5分討論2分 4グループ）

【午後の部】

内容：がん地域連携パスの運用に関する研修

13：40～14：10 がん地域連携パスの運用に関する説明と事例の説明

1. がん地域連携成立の要件

四国がんセンター 診療統括部長 谷水正人

2. がん診療連携パスの現状 がん地域連携パス運用に必要な要素

四国がんセンター 副看護師長 船田千秋

14：10～17：20 グループワークによるがん地域連携パスの運用検討

司会 四国がんセンター 副看護師長 船田千秋

ファシリテーター 四国がんセンター パス推進委員会メンバー他

14：10～14：20 グループワーク（KJ法）の説明

14：20～16：20 がん地域連携パスの運用に関するグループ討議（KJ法）

16：20～16：30 休憩

16：30～17：10 各グループからの発表・討議（1グループ8分討議2分 4グループ）

17：10～17：20 総評 閉会挨拶 四国がんセンター 統括診療部長 谷水正人

グループ分け パス研修会座席表

